

● 新人候補について

日本の松下や東芝の活躍したときよりがないので、多くても半額ほどで、  
「セック」も申すれば十分だった（パンフは厚い方がいい）。しかし、昔は松下は毎日「新選集」  
「セック」の雑誌を刊行し、その大々たる宣伝活動、産業界、文化界、教育界、政治界、経済界、  
電通の各社との関係が、その大々たる宣伝活動、産業界、文化界、教育界、政治界、経済界、  
日一、セックの雑誌を刊行し、その大々たる宣伝活動、産業界、文化界、教育界、政治界、経済界、  
主要な記事が、その大々たる宣伝活動、産業界、文化界、教育界、政治界、経済界、

アタックザック	1500	1500	1500
リュック（カバン）	1500	1500	1500
トレーニングシューズ	2000	2000	2000

本誌の編集方針は、その大々たる宣伝活動、産業界、文化界、教育界、政治界、経済界、  
第一、その大々たる宣伝活動、産業界、文化界、教育界、政治界、経済界、  
その大々たる宣伝活動、産業界、文化界、教育界、政治界、経済界、

### 第三部

### 各務の報告



# 装備報告

担当：田口

## 1. 総括

今遠征に挑むにあたって、装備計画は砂、温度差、駱駝による輸送などの厳しい条件を無事クリアすべく、実績重視でつくった。結果は、若干、装備の故障はあったものの、装備類は想像以上に強く、今遠征の無事成功に大変大きく貢献してくれた。今遠征の装備計画には多くの方々の暖かいご協力をいただいたが、一日の温度差35度以上、砂漠の500km、30日間の連続使用を物ともしない製品を開発された方に敬意を表し、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 2. 装備リスト

### ●団体装備について

団体装備は大きく野営、行程・通信、撮影、調査にわかれる。砂漠行程中は、麻袋等に入れて駱駝に積載した。野営装備は、日光や砂・風を直接うけるためシンプルに、とにかく丈夫であることが肝心。行程・通信装備は、電機製品が多い。水・砂・温度差は大敵なので保管方法と電池の入れ替えが要注意。撮影装備は、注意。撮影装備は、フィルム等の数が多くなるのでまとめて管理する。

装備名	DATA	数量	重量(g)	備 考
テント	DUNLOP提供	5	26600	民族別にテントを分ける。
テント修理セット	DUNLOP提供	適	3000	予備ポール、ポール継ぎ、リペアシート、裁縫道具
コンロ	中国隊準備	1	5000	大型ガソリンコンロ。一日にしてつぶれる。薪で代用
燃料	中国隊準備		2000	コンロ用のため、すぐに不要になる
野太陽電池パネル	三洋電機提供	1	13000	表面強化ガラス。トランシーバー、ヘッドランプ用。
調理具セット	中国隊準備		6000	ムスリムであるウイグル人は豚を調理した道具は使わないので箸やフライパンは機嫌。
営ポリタンク25ℓ	中国隊準備	2	24000	飲料水用
温室度計測器		1	500	温度・湿度・気圧・高度
装ロールペーパー		3	600	
強化ビニール		多		チャックがついており、小物をまとめておくのに便利
備医療タッパー	武田薬品工業	2	4000	医療報告参照
工具一式		1	2000	日本製ガムテープは重宝した
カラビナ、細引き、毛布	登山用品	5	1000	太陽電池を駱駝に固定させるため、カラビナは使える
クーラー		1	2500	ショックと温度差から機械・フィルムなど装備を守る
オケ	ウイグル人	2	4000	駱駝に水をやる時使う。人間の洗面にも使う。
駱駝積載用装備	ウイグル人	適	5000	麻袋、羊の毛で編んだロープ。
GPS	トリプルジャパン	2	1000	衛星を利用し位置を測定
無線機	中国隊準備	1	4500	ホータンとウルムチにも各1機
無線バッテリー	中国隊準備	2	20000	トラック用大型バッテリー使用
行トランシーバー	ケンウッド 提供	4	1200	隊内通信、FM14.4MHz
程単3型電池	松下電機提供	100	2000	アルカリ電池、GPS用
通	松下電機提供	100	2000	ニッカド電池、トランシーバー用
信		8	160	リチウム電池、非常時の為に保管
装地図	中国隊準備	多		研究所の所有する軍事機密の5万分の1
備	TPC, ONC	各1		1/5000000、1/10000000
双眼鏡	ニコン	3	1800	8、10倍 ルートファインディング用
関西大学探検部部旗		1	1000	竹竿にくくりつけた。紺色。
日中科学技術協力会議旗	日中科学	1	1000	赤くて小さい。
遠征隊旗	中国隊準備	1	2000	補給隊が保管。赤くて大きい。
カメラ	ニコン提供	4	6000	撮影報告参照
フィルム	朝日新聞提供	300	6000	ネガカラーフィルム
撮影	富士写真	8	1600	リバーサルカラーフィルム
装	Hi-8	2	6000	予備は必要
備	富士写真	1	2000	90分テープ
ビデオバッテリー		5	1500	3000mA、ニッカドバッテリー
太陽電池パネル	三洋電機提供	1	13000	ビデオバッテリー充電用。発電量大
レインパック		1	1000	あまり使用せず
中型スコップ	組み立て式	1	2000	土壌調査に使用
調サンプル入れ	法政大学	3	3000	プラスチックビーカー
査計測器	法政大学	1	300	気象計測と水質測定能力
装クマムシ採集セット	東京女子	1	4000	ホルマリン、ビーカー、ペピット
備記録用備品		適	1000	メモ用紙、筆記具
調査具入れ	SAS	2	2000	防水のカバン、バッグ

●個人装備について

替えの靴下や下着などは心配しだすときりがないので、多くても3セットまで、と約束した。替え下着は、1セットも用意すれば十分だった(パンツは履かない方がよい)。しかし、替え靴下は多目に準備すべきだったとテントの中の匂いを嗅ぐとつくづく悔やまれた。着るものに関しては、暑ければ暑いほど長袖、長ズボン、帽子が必要。みんなが持っていたウォークマンは砂にはとても弱い。

装 備 名	DATA	数量	重量(g)	備 考
アタックザック	獣スポーツ靴	1	1500	容量80L、ガイアα
シュラフ(カバー)		1	1500	-15度までは対応できるもの
トレッキングシューズ		1	2000	ハイカットタイプ
ステンレスポトル	タイガー靴	1	550	冷たいものを冷たく飲めるのはとても幸せ
コンパス		2	200	
食器セット	中国隊準備	1	300	マグカップと箸はよく使う(種類多い)
ナイフ		1	200	缶切りが付いていると便利
ヘッドランプ、替え電球		1	300	替え電球は日本製がよい
単3電池	松下電機提供	8	160	ニッカド電池、ヘッドラン、ウォークマン用
防寒着		適		赤と蛍光食は目立つ
替え下着	化繊下着	適		着替えるチャンスはあまり無いので少なくて良い。
スパッツ	登山用品	1	200	確かに砂には有効だが、無くても平気
靴下	厚手のもの	適		蒸ないので快適。テントに匂い染みつくのを防ぐ
手袋	中国隊準備	2	200	寒い時、作業する時、薪を集めるときに使った
サングラス		2	200	陽射し避けと風砂対策に有効
帽子		2	400	耳を隠し保温するものと陽射しをさけるもの、必携
マスク		2	100	風砂避け
ウエストポーチ		1	400	カメラ、フィルム収納
ゴム草履		1	500	履き変えれば気持ちいい。
小型医療タッパー		1	300	使用頻度の高い物だけ

●非常時用装備について

今遠征では、非常時用装備を使う場面はなかった。しかし、今後の遠征隊も何らかの原因で隊員がはぐれてしまっても自分の身を守り、位置を知らせる手段とノウハウは知っておかねばならない。

装 備 名	DATA	数量	重量(g)	備 考
ビパークザック	2m×1m	1	300	これを用いればかなり寒さは紛れる
ライター		2	100	砂詰まりを予防しておく
常形燃料		1	300	フレームのあるもの
非常食		1	350	食糧計画参照
用ビニール袋	厚手大	1	50	砂漠での非常採水に必要
装笛	SOSホイッスル	1	50	
備鏡	掌サイズ	1	150	反射光を利用
旗用布、マジックペン	1m×1m	1	300	目印をつけるため
非常時用装備収納袋		1	300	1セットにまとめて携帯する

3. 各装備について

[GPS] : トリンブル・ジャパン スカウト・マスター (単三電池6本)

このGPSは手の平サイズで重量・電池消費量・計算速度・耐久度において申し分なかった。運用方法は、約2時間毎の小休憩時に現在位置・移動距離計算、そのデータのメモリーという機能を使ったがボタン類も少なく、丈夫な作りになっていたので故障も全く無かった。よく使われるラリーやヨットでは、常に電源をつけて、ナビゲーション機能も用いるが、我々には必要なかったため、30日間500kmの行程中、電池交換は一度、計単三電池12本を使ったのみ。砂漠行必携の装備である。

[無線] : 八重洲無線 FT-740 ※中国隊準備

砂漠で使ったバンドは7MHz帯のみだった。交信距離はウルムチまで1000km、ホータンまで300kmで、朝の定時交信で毎日連絡をとりあった。動力には、発電機、整流機のセットを用いず、トラック用の大型バッテリーに充電して砂漠に挑んだ。1日20分の運用ならバッテリー一個で2週間は持った。ちなみに、中国では日本のアマチュア無線資格は問われず、申請による許可制度である。

[トランシーバー] : ケンウッド TH-22 (単三ニッカド電池4本)

基本的には日本隊2機、中国隊1機、予備保存1機で隊内通信をとった。視野の開ける砂漠なので、14.4MHzでも3.5km以上電波がとんだ。TH-22は、ボタン類も少なく、一目で電池残量もわかり、パワー設定も3段階使い、アンテナ接合部などをガムテープで目止めするだけで、胸のポケットに入れても故障せずに使いやすかった。今回使った電池は再利用の有効性を考えて、ニッカド電池(松下電工)を使用したの、電圧は1.2V、4本で合計4.8Vになり、アルカリ4本対応6Vの規格から下回ったが、運用においては大した問題はなかった。補給の難しいフィールドでのニッカド電池の使用はおすすめである。

[太陽電池] : 三洋電機 アモルファスモジュール/2枚

充電容量は一度に単三電池40本、ビデオ用3000mAバッテリー1本で、砂漠の強烈な陽射しの下なら朝取りつけて、昼ごはんの時には軽く満充電に達していた。太陽電池を選んだのは、無限の太陽のクリーンな利用と、故障が少なく、万一故障しても物不足の砂漠でも対応可能だったからである。実際には、満充電防止のダイオードを回路に入れていただいたので、故障もなく、ずいぶん活躍してくれた。使用用途は、ビデオ、トランシーバー、ヘッドランプ、ウォークマン、カメラフラッシュ、ウイグル人持参のライトの電源である。

[ステンレスボトル] : タイガー魔法瓶 サハラ/0.9㍓

砂漠には言うまでもないが、水が貴重だ。しかし、現地の水は日本人にはなかなかなじまない味である。また、生ぬるい水は、疲れた体にはしんどい。そこで、熱くしたなら熱いまま、冷たくしたなら冷たいまま持って移動できるステンレスボトルは嬉しい存在であった。前の晩、夕食後にやかんに水を入れて煮沸しておけば、朝晩の急激な冷え込みで水はとて冷たくなる。朝になってそれを粉末ポカリスウェットと混ぜて「サハラ」に入れて「タクラマカン」を歩くという、粋な構図が流行った。また、熱いお湯に中国茶葉を入れていた隊員も満足気であった。

#### 4. 中国で買える、又は買えない装備

[中国で買う方がいいのではないか。]

今遠征の装備計画は中国側と役割分担をして装備を収集したのが成功して、スムーズに事が運んだ。だが、中国の市場を見て歩くと、もっと中国国内で買って輸送に伴う金銭と危険を減らすことができると感じた。

- 下着、靴下、手袋、麻袋、縄、ヒモ類
- ダウン製防寒具
- ゴム草履
- 食器、キャンプ調理具セット
- 飲料水用ポリタンク

[中国で買うことが可能な装備]

以下に挙げる機械類の他は、発電機、無線機、トランシーバー、カメラ、双眼鏡も入手できる。しかし、練習を必要とする装備ばかりだから、予備購入の参考ぐらいにしてほしい。

[中国では買えない装備]

血まなこになればおそらく全ての装備を集められるだろう。しかし、一般にはなかなか手に入らないものを挙げると、

- GORE-TEX等の特殊加工品
- GPS
- 太陽電池、ニッカド電池
- 浄水機
- クロロファイバー、オーロン製の下着
- 60㍓以上の大容量アタックザック
- スパッツ
- テント

[日本から持っていった方がいい小物]

- ガムテープ/ビニール袋
- ヘッドランプ、替え電球
- 本
- テント修理の予備ポール、リペアシート
- 電池類
- マジックペン
- 万歩計

第一回補給の様子



装備はむしろ、到着してからの保管が大切。

